



日本プライマリ・ケア連合学会
近畿ブロック支部



発行人：雨森 正記
事務局 〒550-0001 大阪府大阪市西区
土佐堀1-4-8 日栄ビル703A
あゆみコーポレーション内
Tel.06-6441-4918 Fax.06-6441-2055
E-mail jpca@a-youme.jp
HP primary-care.or.jp/primarycare-kinki/

ニュースレター No.32 (2021.6)

近畿ブロック オリエンテーション オンラインで開催！ 2021.6.5



蓮間英希 (西淀病院/大阪市)

例年よりも早い梅雨入りの中、近畿一円の専攻医 39 名 (1 年目 12 名、2 年目以上 27 名) を迎え、指導医を含めて最大同時接続者 52 名でオンラインのオリエンテーションを開催しました。草場鉄周先生の専攻医に向けてのメッセージをいただき、「研修開始にあたって」(成瀬瞳)「専攻医部会紹介」(溝江篤)「ポートフォリオって何？生涯教育として考える」(大竹要生)という内容で講義を行いました。プログラム責任者による 1 分トークも個性豊かな発表で、近畿には魅力的なプログラムがたくさんあることを再認識できた内容でした。今回は前回のオンライン開催を活かしながら指導医で司会や運営、準備を行い、大きなトラブルもなく成功したと感じています。振り返りとして小グループでのディスカッションも行って他のプログラムの専攻医との交流もしましたが、事後アンケートではディスカッションの時間が足りないという嬉しい声が多く、改めて専攻医の交流をはかる場をどうするのか、ということも懇親会で盛り上がりました。

近畿ブロック支部オリエンテーション実行委員
一瀬直日、稲岡雄太、小林正宜、飯野貴明、蓮間英希、朝倉健太郎、雨森正記



特集 1 : 近畿の話題

COVID-19 関連の取り組み (兵庫)

石丸直人 (社会医療法人愛仁会 明石医療センター総合内科/兵庫県)

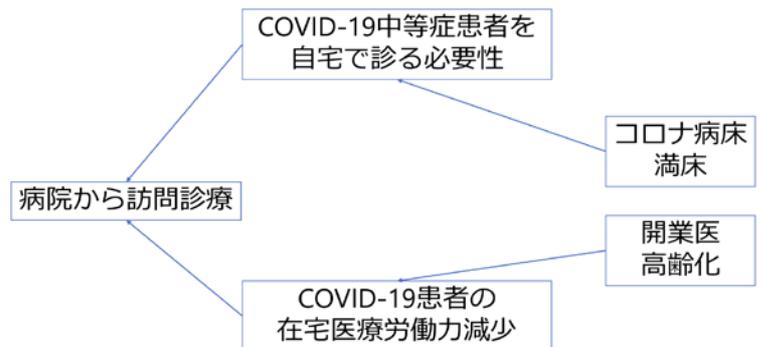
COVID-19 の第 4 波は、明石でも広がりを見せ、病床確保が困難となる中、在宅で中等症患者を診療する体制を整える必要が出てきました。これを受けて、当院でも COVID-19 以外の救急患者を受け入れる役割を保ちつつ、救急外来で判明した COVID-19 患者の受け入れおよび自宅療養バックアップを行うシステムを構築することになりました。

COVID-19 は高齢者で重症化しやすいという疾病特徴があるため、在宅医療従事者の高齢化と在宅診療ニーズのミスマッチという課題も浮き彫りとなり、これまで COVID-19 患者を受け入れてこなかった医療機関や在宅診療を行っていなかった医療機関のタスクシフトも必要となっています。

また、パンデミック下では、これまでと同様の医療サービスが提供できなくなっております。この状況を踏まえて、患者教育もインターネットを介して

行われるようになり、その有用性も報告されています (Rackel ら JAMA Intern Med 2021)。当プログラムの専攻医金子医師も、「めいまい保健室」のオンライン体操教室を主催し (以下 QR コード参照)、その活動がメディアでも取り上げられました。後期高齢者が自分でタブレットを操作し、体操教室に参加するといった、これまではなかったような風景が見られております。

COVID-19 が蔓延する中、「経済と感染対策」といった対立構造が生まれており、「患者ニーズと医療崩壊」といった我々の診療現場でも直面している構造もあります。このような対立構造の中、新しい解決策を創造するために、対立解消図 (エリヤフ・ゴールドラット ザ・ゴール 2) が役に立つかもしれません。対立する主張にもさかのぼっていくと共通の目的があり、互いの主張の暗黙の前提を洗い出すことで、妥協できるポイントやアイデアを見いだす方法です。(上図参照)



上記の課題も、病院や診療所に家庭医がいることで、直面する構造を見直し、病院からの在宅診療、オンライン体操教室といった解決策を見いだす一因になったのではと考えています。



「めいまい保健室」の取り組み「STOP コロナフレイル」 NHK Live Love ひょうご

COVID-19 への対応 (京都)

川島 篤志 (福知山市民病院/京都府)

医療従事者にとって、2021 年春～夏は、「コロナウイルスワクチンへの対応をした時期」と記憶されるかもしれませんね。ワクチン筋注について、JPCA 予防医療・健康増進委員会 ワクチンチームが動画作成し、厚生労働省の HP にも掲載されたことは記憶に新しいかもしれません。2021 年 6 月時点で動画再生回数 34 万回以上と、大きな貢献ですよね。

もしくはコロナ禍で改めて「かかりつけ医」のあり方が問われた節目の年になるのかもしれません。日本総研からの「持続可能で質の高い医療提供体制構築に関する提言」のなかのひとつに、『コロナ禍だからこそ見直すべき「かかりつけ医」の役割：国民の一生涯の健康を地域多職種連携で診るプライマリ・ケアチーム体制整備』がありました。もう読まれましたか？

その提言書のなかにも「予防接種」の言及があるように、コロナ禍が落ち着いたとしてもプライマリ・ケア医のワクチン関連業務はまだまだ終わりません。

直近で対応したいことは、何でしょうか？風しん抗体価測定（→ワクチン接種）の厚生労働省の事業は、現時点で2021年度で終了予定となっていることをリマインドしたいですね。生年月日を確認してワクチンのことをさらりと話題に出せる職業は医療従事者です。奈良の北和也先生が発案した、「無に泣く世代（1962～79年生まれ）の男性」へのアプローチは秀逸な語呂合わせで、今や、国家試験対策のテキストや商業誌・書籍でも引用して下さっています。歯科領域も含めた医療現場だけではなく公衆衛生的、つまり多くの住民に対してのアプローチも我々にできることかもしれません。福知山市の住民に配布される「広報ふくちやま」に下図のような広告を出してもらいました。この効果がどれくらいか・・・はわかりませんが、少しでも啓発につなげることができれば嬉しいです。皆さまも是非。

HPV ワクチンの動きも目が離せません。厚生労働省から新たなお知らせが2020年に配布されています。対象年齢の方への説明もある意味、限られたタイミングでしかできない準緊急対応です。定期接種の公費適応ではない9価ワクチン承認についての知識整理や、接種できる医療機関としての対応や紹介もプライマリ・ケア医の技量の一つです。

大人へのワクチン接種もまだまだチャレンジな領域です。帯状疱疹ワクチンも不活化ワクチンをどのように説明するか、なかなか難しいところですね（当施設ではまだ接種ゼロです）。公費負担を導入している自治体が既にあるので、自治体への働きかけを検討されている方もおられるかもしれませんね。2種の肺炎球菌ワクチンも EBM 実践という臨床力と説明力が試されるワクチンですが、皆さまはどうされていますか？

第12回JPCA学術大会では大人のワクチンについての一般演題も複数みられました（まだ閲覧可能です）。それぞれの医療機関でのワクチンプラクティスの工夫を皆で語り合える機会がもてるまで・・・それぞれの地域で頑張りましょう！

特集2：第34回日本プライマリ・ケア連合学会近畿地方会のお知らせ

同地方会実行委員長 島田 史生（大阪医科薬科大学病院 総合診療科／高槻市）

第34回日本プライマリ・ケア連合学会近畿地方会（以下、本会）は11月28日の開催に向け、近畿ブロックの皆様にも多大なお力添えを頂いております。本稿では、開催まで残すところ5ヶ月を切った本会の企画につきまして、いち早く皆様にお伝えいたします。

■特別講演「COVID-19 Update」

第5波到来の予測もなされている新型コロナウイルス感染症については、世界中の研究者から日々新たな知見が報告されています。特別講演「COVID-19 Update」では、ウイルス感染症として最先端の医学的知識を総ざらいすることを目的に、基礎医学（大阪大学名誉教授・宮坂昌之先生）、疫学（名古屋市立大学・鈴木貞夫先生）そして臨床医学（国立国際医療研究センター・忽那賢志先生）の3つの面から各分野の専門家をお招きして講演を頂きます。中・長期的な対応が求められるとも言われている新型コロナウイルス感染症について学び直す機会を提供できれば、と考えています。ぜひご期待ください！

第34回近畿地方会 タイムテーブル (案)

会場	9:00	9:30	10:00	10:30	11:00	11:30	12:00	12:30	13:00	13:30	14:00	14:30	15:00	15:30	16:00	16:30	17:00	17:30	18:00	18:30
1		特別シンポジウム1 『地域』はコロナ禍とどう向き合ったか? (仮) (9:30-11:10)				大会長講演 (90min)		共催セミナー1 携帯型エコー 在宅活用術～医師・訪問看護師編～ (12:20-13:10)		研修医・学生セッション ドクターGに挑戦 from 大阪(仮) (13:30-15:00)				特別講演1 COVID-19 update (15:20-17:00)				閉会式 表彰式		
2		適々齋塾企画 オニマツぶった斬り ～コモンの方が深く差が出るんだよ～ (9:30-12:00)						共催セミナー2 在宅・高齢者施設でよくみる湿疹・皮膚炎の治療戦略 (仮) (12:20-13:10)		ワークショップ1 アフターコロナのアクションプラン(仮)薬剤師 (13:30-15:00)				シンポジウム2 小児から成人へ 移行期医療の担い手としての総合診療医・家庭医 (15:20-17:00)						
3		教育講演1 しくじり症例から学ぶ! Difficult Patient対応技法 (9:30-10:30)		教育講演2 戦え緩和ケア～四の五の言わずに症状取ったらええねん～ (10:50-11:50)						教育講演3 セクシュアリティヘルス (仮) (13:30-15:00)				シンポジウム3 大阪の地から健康格差を考える (15:00-16:40)					支部別 代議員 連絡会	
4		口演1 (9:30-10:30)		口演2 (10:50-11:50)						口演3 (13:10-14:10)		口演4 (14:30-15:30)		口演5 (15:50-16:50)						

■教育講演1 「しくじり症例から学ぶ! Difficult Patient 対応技法」

日々の診療では“好ましくない”感情を抱いてしまう患者さんに、残念ながら私たちはしばしば遭遇します。このような患者さんは Difficult patient (DP) と言われ、医療者を疲弊させるばかりか時には診断エラーにも繋がるのが指摘されています。この講演では DP 対応のスペシャリストである鋪野紀好先生 (千葉大学) に、講演を聞いた翌日から役立つような実践的なお話を頂きます。

■教育講演2 「戦え緩和ケア ～四の五の言わずに症状取ったらええねん～」

在宅医療における緩和医療は、今後社会の高齢化が進む中で私たちプライマリ・ケア医にとって避けることのできない課題です。本講演では在宅での緩和ケアに取り組んでおられる2人の新進気鋭の先生に、症状緩和の基本と応用、さらに患者・家族とのコミュニケーションをテーマとして、現場での示唆に富んだお話を頂きます。

■適々齋塾 Presents 「オニマツぶった斬り ～コモンの方が深く差が出るんだよ!～」

私たちプライマリ・ケア医は、新型コロナウイルス感染症への対応と並行していわゆる common disease への対応も欠かすことができません。本企画では大阪が誇る自主的な学びの場である「適々齋塾」との共催により、佐田竜一先生 (天理よろづ相談所病院)、坂本壮先生 (国保旭中央病院)、和足孝之先生 (島根大学)、大場雄一郎先生 (大阪府立急性期・総合医療センター)、矢吹拓先生 (国立病院機構栃木医療センター)、上田剛士先生 (洛和会丸太町病院)、清田雅智先生 (飯塚病院)、國松淳和先生 (南多摩病院) といったまさに錚々たる講師陣を迎え、7つの“よくある疾患・症状”のピットフォールについて縦横に語って頂きます。

[支部からのご連絡]

ブロック支部活動について皆様からのご意見やご提案をお待ちしております!

近畿ブロック支部・各府県支部・公認グループ活動のホームページが更新されました!

<http://www.primary-care.or.jp/primarycare-kinki/> 是非、アクセスしてみてください。

(学会トップページ <http://www.primary-care.or.jp> 上部メニュー「講演会・支部活動」から)

→ 詳細は、上記ホームページをご参照願います。

ホームページ担当: 梶原信之